

平成19年(2007年)

創刊号

(6月1日発行)

発行者 鎌田正明氏 滝利幸
印刷所 ひまわり印刷

紫雲会東京

今号の主な内容

7月7日(土)14:00
総会のご案内
3面をご覧ください

- 2面 平成18年度紫雲会東京支部活動報告
- 3面 紫雲会東京支部総会のご案内
- 4面 紫雲会東京支部東京70年史
- 5面 年次別幹事会発足私と故郷
- 6面 第89回東京香川県人会定期総会のご案内、会費納入者

『紫雲会東京』会報の創刊にあいさつ

東京支部長 滝利幸



平素は紫雲会東京支部の運営に深いご理解と暖かいご支援を頂き、心より感謝致しております。紫雲会東京支部は、昭和十年頃、鈴木祥枝氏(東京海上火災保険社長)、松本昇氏(資生堂 社長)、鎌田正明氏(商工組合中央金庫 理事長)の三氏が中心になり、東京で高松商業学校の同窓会としてスタートしました。第二次世界大戦前後に約八年と、その他三年程休業しておりますが、七十二年の長い歴史があります。その間、政界、実業界、スポーツ界で活躍した人材を大勢輩出し、日本の発展に諸先輩は貢献致しております。『高商百周年記念誌』を参考し、昨今、社会の仕組みが移り変わり、価値観の変化等で、紫雲会東京支部を取り巻く状況も

「紫雲会東京」誌発行の趣旨

会報編集長 造田 貞勇

社会環境も大きく変わり、会則の目的、即ち「会員相互の親睦や母校の発展に寄与し共存共栄の実を上げる」ことが、従来のやり方だけでは難しくなりました。一昨年に施行された「個人情報保護法」は会員間の密接・良好な連絡網の整備という観点から見れば、具合が悪いのです。今回、会員相互間や、紫雲会本部、大阪支部、母校との情報発信も、会員の皆様への

変化して参りました。従って、会の運営も変化に順応即応していかねばなりません。会員による、会員のための会という民主的運営方法を採らなければ、会は継続が困難になるのではないかと危惧致しております。三年前より会の運営に關し、会則「資金」、「組織」、「事業内容」を検討し、未完成ですが、改善して参りました。その一環として、年一回「紫雲会 東京」という会報を発刊することになりました。会の目的は、会員相互の親和連絡を図り、併せて母校の発展を援助することにあります。どうか、積極的に、会員の皆様が見聞を表明され、係りを担当し、会の運営に携わって下さい。総

連絡や記録等の重要性に鑑み、東京支部として会報を発刊することになりました。毎年七月の総会案内も掲載しております。この会報をご覧いただき、東京支部のほほ一年間の活動とか他の情報も知ることが出来ます。この会報によって、会員間の交流・親睦がより深まればと願うところです。最後に会報創刊にあたり、ご支援いただいた滝利幸支部長をはじめ、出稿者の皆様、編集の方々に心より感謝申し上げます。

会報創刊によせて

紫雲会本部会長 齋藤 和良

明治33年4月に、県下の商業教育の第一歩を踏み出し、100年を過ぎ、平成22年には110周年を迎えるようになりました。

その間、卒業生は3万人を超え、地元はもとより、全国各地に広がり活躍されております。

会、親睦会、会報等で、より親睦を図り、情報の交換等、連絡を密にして会の目的を果たすために、ご協力をお願い致します。明るく、楽しく、仲良く睦みあい世代を超え交流する同窓会に致しますよう。

最後になりましたが、発刊に当たり、常任理事会議長 榎本憲一氏、会報編集長 造田貞勇氏、会報編集委員 各氏、分科会各氏、それに印刷担当の橋 昭次郎氏の皆様には資料集め、執筆、編集作業等、前例もなく、お金にも、時間的にも制約のある中で、大変ご尽力下さり今日の発刊に至ったことに心より感謝と敬意を表す次第でございます。尚、榎本憲一氏は支部長代行、造田貞勇氏は常任理事会議長に夫々役員会で審議決定され、本年度の総会に諮ることになっております。会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念して発刊の言葉とさせていただきます。

東京支部においても、滝利幸支部長さんのもと、支部の皆さんのご配慮により、その活動が活発になりました。あることに、感謝と敬意を表します。現在の母校高松商業高校は、全国の商業高校の雄として、進学、就職、部活動の幅広い実績を残すことが出来ております。先輩である紫雲会の会員各位の物心両面からのサポートによる面が大きいと思っております。

こんな時期、東京支部において、会報を創刊され、会員の親睦と交流を図られることは、大いに期待し感謝申し上げます。この会報誌を多くの紫雲会の皆さんに配送されるには、名簿が必要と思われま。個人情報保護法等の規制を充分配慮しながら、名簿の作成にも協力させて頂きたいと思っております。担当される方々のご苦労に感謝しながら、今後久しく「会報」が継続されますよう祈念申し上げます。

創刊号へ期待

香川県高松商業高等学校校長 宮川住雄

紫雲会東京支部の活動が、支部長様を中心とし、ますます充実されていることに、心から敬意を表します。また、平日頃から物心両面にわたり力強く、母校「高商」を応援していただいておりますことに感謝申し上げます。

今日、商業教育をビジネス教育と称し、起業家教育や知的財産権、金融教育等に関する知識・技術の習得の必要性が求められてきています。規制の緩和等による経済社会構造の変化への対応と言っても良いのではと思えます。そのような中で、「簿記3級取得を社員教育の内容へ」という日経新聞の特集記事もあり、コスト意識、コスト管理の重要性も認められます。

近年、紫雲会東京支部は、良き伝統を受け継がれた滝利幸支部長様の熱意で、支部活動が活発化されようとして居ります事を心からお慶び申し上げます。その一環として会員向けに会報が創刊される由、誠に有意義であり、同じ目的で行動する大阪支部と致しまして心強く、また支部運営にも大きな参考になります。我が大阪支部は母校が春、夏、甲子園に出場する事が常連となり応援団を結成する母体として設立55年と聞き及んで居り、今年創立55年になります。

東京支部は母校高商の第1回卒業生で、AIU・JAPAN社長 鈴木祥枝氏、第2回卒業生、資生堂社長 松本 昇氏等、当時我が国の実業界で活躍する偉大な先輩が中心となり、支部結成を呼びかけこれら

識されつつあります。また、情報通信技術の進歩により生産と消費をつなぐ流通の側面に置いて、ICTで直接コミュニケーションがなされるなどの変化が起きていると指摘もされております。

このような中で、年々の東京支部総会における歓談の中で、常に「高商生」の力強さを感じさせられます。「高商」の教育の柱は何かを痛切に感じています。先輩諸氏の築かれた伝統の上に、新しい創造を加え、「高商」の発展を期すとともに、東京支部の今後のますますの発展を祈念し創刊号へ寄せる言葉とさせていただきます。

両支部がこの伝統を引き継ぎ、互いに支部活動が出来ます事は有難い事でありませぬ。母校は戦後、男女共学、女子学生が過半数を占め、スポーツ、文化活動も年々変化致して居りますが、私達の母校は高商の名のもとに今日在る事は大きな喜びであります。

この度創刊される会報は、高商に学んだ者には母校に想いを馳せ、誇りを共有出来る絶好の書となるものと確信します。この会報が東京支部のバックボーンとして継続して発刊される事を願っております。



平成18年度 紫雲会東京支部活動報告

常任理事会議長 榎本恵一

総会を毎年七月第一土曜日に開催することが決まり第一回目を平成十八年七月一日に行ないました。が、溝淵支部長の方針で会員のための東京支部活動を活性化するためにどのようにしていかかが、大きな課題となりました。

どちらかという総会案内に至るまで全て支部長に無理をお願いしていた従来のやり方から、東京支部内に課題毎のプロジェクトを作り、課題毎の解決を図っていくやり方に変えていく、即ち、組織により東京支部を活性化していく大きな舵取りの変更の方針がなされたと言った方が判りやすいと思います。

勿論、現在はその途上にあります。が、少なくとも一部の人のだけで運営をするのではなく、より多くの同窓生が参画をして極力オープンにしてい

く東京支部の方向性は明確になってきました。

このような考え方から、動員を増加する方法、優れた功績を上げた人への表彰規定、親睦交流を促進するアイデアと計画、若い世代の出席をしやすくするための総会会費の検討（従来男性七千円、女性四千円、20歳まで無料。新しく男性七千円、女性四千円、29歳まで四千円、20歳以下無料）や、従来、年会費は無料でしたが、郵送代金事務費は実費程度負担して頂くことから三年間千円の年会費の負担（今後三年間返事の無い人には連絡郵送しない、理事は従来どおり毎年三千円、副支部長一万円、支部長五万円以上）と決めました。

このような事から会則の変更や細則の新設等大きく変わりました。

紫雲会東京支部 平成17年度 会計報告		会計期間:平成16年8月1日～平成17年7月31日	
収入		支出	
前年度繰越	786,373	総会飲食代	609,000
総会会費	436,000	印刷代(総会案内状)	168,000
男 @7000×56名	392,000	通信費(郵便、はがき代)	27,240
女 @4000×11名	44,000	香典代	10,000
お祝い金	70,000	振込料負担金	4,130
高松商業高校	30,000	寄付金 野球部OB会	300,000
紫雲会本部	20,000	会議費	132,000
野球部OB会	20,000	役員会	132,000
役員会会費(自己負担分)	66,000	その他	26,908
@3000×22名	66,000		
役員年会費	403,000	次年度繰越	484,097
受取利息	2		
小計	1,761,375	小計	1,761,375

上記承認された。

別課題別に取り組みました分科会からの報告が記載されますが、総会では昭和35年の春の選抜甲子園でサヨナラホームランを打った山口富士雄さんの講演があり、最近、野球の話題も少ない中で一服の清涼剤として感慨に浸ることができました。紫雲会高松からは齊藤会長や大阪支部からは多田副支部長、母校からは宮川校長から故郷や大阪の活動、学校の活動等のお話があり100名余が歓談をしました。まだ組織による東京支部活動の活性化は途上にありますので、皆さんの参加を積極的にお願い致します。



付議事項

平成18年度 紫雲会東京支部総会 事務局 漆原慎一

『東京支部会則』の改定版を総会で承認されました。総会にご出席されていない会員の方に、この主要な改正要旨を申し上げます。まず、新組織、「常任理事会」を支部の中に新設しました。この会は、支部長からの諮問事項の答申とか役員会に諮る付議事項の原案作成等の業務を行うことが主要な役割です。この常任理事会に四つの分科会を設け、課題、問題点を各分科会で検討・協議することになりました。

次に、会計年度の期間を変更しました。従来の会計期間は、毎年8月1日～翌年7月31日でした。総会は6月末に開催する関係上、1年も前の決算書を審議・承認していたわけです。これを、毎年4月1日～翌年3月31日に変更しました。3ヶ月余で決算書類の作成はできますから、会員の皆様には直近の行事と、それに伴う費用の支出額が相当か否かの判断が出来易くなりまして、更に、総会は、この会の最高議決機関であって毎年一回開く文言を入れ直しました。それから、第五章には、「慶弔」を入れ慶弔、弔事に対処できる仕組みを作りました。最後になりましたが、会費は、3年間にお一人千円と決まりました。従来、会費の徴収という文書は入っていました、具体的な額とか期限を決めていませんでした。常任理事会のメンバーは(敬称略)榎本恵一、安西 愈、造田貞男、宮本洋子、上田康夫、杉ノ内義青、横山征一の七名です。

常任理事会の紹介

常任理事会議長 榎本恵一

二〇〇六年二月の紫雲会東京支部役員会で溝淵支部長より、東京支部

活動全般についてより活発な活動をしていくため、支部長の諮問に答えられるような支部長を補佐する機能を持つた、新しく総務委員会を作った。新しい総務委員会を作った。新しい総務委員会を作った。新しい総務委員会を作った。

文化・スポーツ等分科会の目的はその分野で継続的に努力されている方にスポットライトを当て表彰候補として意見具申することにあります。昨年の七月総会で名前も常任理事会と変わりました。分科会のメンバーも充足し、分科会を開催し課題毎にまとめた意見を、議長が最終常任理事会を開催し確認をしながら支部長へ意見具申を行なっております。今回、新任理事候補も総会の決議次第、メンバーの一員となり、常任理事会を充実させ活躍頂く事になっております。

尚、活動分野は平成十九年度より会報発行もあり、皆さんの意見を反映するため、多くの会員の参画を募っております。どうぞ会報タイトルの事務局へお問い合わせ下さい。

会員動員増強分科会

分会長 横山征一

総会の活力のバロメーターは「総会出席者数」といえます。交流・親睦の実を上げることこそが真に大切なことですが、大勢の会員に支え

られた総会の充実があってこそ、その果実を得られるものと考えられます。私達は総会に大勢の会員がご出席いただけるようあらゆる施策を検討し、提案し、実行しております。

そこで、次のような従来、総会は6月末で、平日の開催は株主総会等とぶつかることから会員で出席できない意見もあり、紫雲会本部、学校側のご協力、毎年7月の第一土曜日に変更するように昨年からは実施しております。総会の講演も吟味し昨年は昭和35年春の選抜高校野球大会で二死で本塁打を放ち優勝に最大の貢献をした「山口富士雄」氏に依頼し好評を博しました。

更に、今回4月21日に実施しました年次幹事発会式で年次の幹事を決め、その方を通じて総会のフォローアップをする新しいやり方を導入しました。

又、出席をし易くするために、懇親会の費用設定を改善するよう役員会で検討して頂き改訂したこと、総会の出欠のお返事が3年間無い方には案内状を出さないこともやむを得ないことと考え、そのように実施することにしました。

このような、施策をしつつ、結果は昨年よりもやや増加したものの101人でした。目標は150人でしたから、まだまだ道遠し感じがいたします。今後より効果的な施策を打ち出して、目標達成に向かって頑張ります。

メンバー：横山征一(分会長)、小畑和子、小林紀子、桑島恵美子、黒川絹代 5名
尚、次回から分会長は、杉ノ内義青氏となり、横山氏は「親睦・交流分科会」の副分会長となります。

会則等ルール分科会

分会長 造田貞男

紫雲会東京支部は戦中、戦後の混乱期の一時期、その活動は中止せざるを得ないこともあった。紫雲会本部)会則と旧東京支部会則を見比べてみますと、本部会則は「総会はこの会の最高議決機関であって毎年一回開く」となっている。しかし、旧東京支部会則には、この条項は入っていません。従って、総会を開催しなくても、会則上は何ら問題はないしかしながら、再開後、総会は毎年開催しております。やはり、当支部会則にはこの重要事項は入れなければなりません。そこで、会則自体の問題、会則と運営との不整合性等不具合の箇所を正すことがまず求められます。次に、支部長のの方針は大きく括ると、三つではないかと思われまます。「支部活動の活性化」、支部の組織化、開かれた運営」です。

これは、従来の組織、運営方法、制度を変えることになり、この変更見直しに伴って、当然、会則等の変更とその整備が要求されます。そこで、当分科会は旧会則の精査と、新体制に整合性のある諸規則はどうあるべきか、を課題に検討をして参りました。このようにして、新会則・細則は分科会員の弛まぬご努力とご協力を得て案がまとまりました。特に安西先生には快くご指導を賜り御礼申し上げます。種々の審議を経て、総会のご承認を得た次第です。今後、公正、整合性、迅速性を旨として分科会員は頑張りますのでよろしくお願ひ申し上げます。

メンバー：造田貞男、榎本恵一、安西愈、漆原慎一



平成十九年度 紫雲会東京支部総会のご案内

七月七日午後二時
場所 サンミ・高松七丁目店

七夕総会

東京都中央区銀座七丁目二十一日目電話〇三三五四六八八二
高松商事(株)内 問合せ先電話
紫雲会東京支部事務局 漆原 〇三三五六八三三〇

昨年の総会で本部、母校の協力を頂き毎年第一土曜日に総会を行うことが決まりました。多くの方から計画がしやすくなったとの言葉をお聞きすることが出来ましたが、昨年は一〇一名の出席者でしたが、今年はそれを上まわるように皆様方の協力をお願い致します。

今回の総会で講演をして頂く方が決まりました。福岡ソフトバンクホークス(株)の代表取締役社長であり、ソフトバンク(株)取締役でもあります昭和三十年卒の笠井和彦氏です。皆様良くご存知の野球界で

最も元氣印の球団であります。当日は幅広く有意義なお話が聞けることを今から期待し楽しみに出来まします。今回の総会で最近まで判明している主な項目を掲載致します。

最初、笠井さんによる講演から始まり、ご挨拶の次に報告事項・議題が幾つかあります。主だったものを上げますと、香川県人会理事に東京支部より三名推薦承認報告、昨年10月ゴルフ大会報告、常任理事候補、理事候補、組織一部変更案(支部長代行新設、常任理事会議長交代、年次幹事新設) 表彰規定の変更

紫雲会東京支部 平成19年度 予算案		会計期間:平成19年4月1日~平成20年3月31日	
収入		支出	
前年度繰越	475,509	総会飲食代	660,000
総会会費	570,000	通信費	48,000
男 @7000×70名	490,000	旅費交通費	30,000
女他@4000×20名	80,000	慶弔	50,000
お祝い金	50,000	振込負担金	3,500
役員年会費	389,000	会議費	210,000
会議費(自己負担分)	100,000	役員会	
役員会		@3000×20名×1回	60,000
@3000×20名×1回	60,000	常任理事会	
常任理事会		@2000×10名×2回	40,000
@2000×10名×2回	40,000	分科会	
分科会		@500×5名×4×3回	30,000
発行誌広告代	240,000	その他	30,000
一般年会費	0	発行誌	300,000
		(従来の印刷代160,000含む)	
		予備費	50,000
		次年度繰越	443,009
計	1,824,509	計	1,824,509

平成19年4月26日作成
注、本予算は4月26日時点でのもので、7月7日の総会時点の予算とは異なる場合があります。

会則等の一部変更
会報を発行する
件 平成十八年度
の会計及び監査報
告 平成十九年度
事業計画及び予算
以上の審議が終
わり 表彰式、乾
杯、食事、歓談と
なります。
会費は男性七千
円 女性四千円
二十九歳まで四千
円 二十歳まで無
料です。
議題は原稿締め切
りの関係から変更
追加もありますの
でご了承下さい。
どうぞふるって
総会へご出席下さ
い。

笠井和彦氏 講演 演目「プロ野球の経営」

親睦・交流計画のご紹介

平成19年度の交流イベントについては、親睦・交流分科会で行うとアイデアを出しながら協議して参ります。実は、交流イベント事業は昨年からスタートしたもので、未だ緒に付いたばかりなのです。大勢の会員が集う交流事業は、最も重要な支部活動と言っても過言ではありません。今のところ、バスによる「東京名所めぐり」と昨年実施しました「ゴルフコンペ」が有力と考えております。いずれも時期については多少涼しく感じる9月か10月頃でどうでしょうか。会員ご家族揃ってのバス旅行は、会員相互の親睦促進に加えて、ご家族の絆がより強固となりましょう。何れにしても、楽しい思い出を作りたいと思いますので、今回は第二回目となります。立派なトロフィーを授与されますので、奮ってご応募いただきたいと存じます。今般、新規に発足しました「幹事会」の首長にもご協力をお願いして盛り上がりのあるイベントにしたいと思っております。詳細が決まりましたら、改めてご案内申し上げます。

芸術・文化・スポーツ 分科会

当分科会は芸術・文化・スポーツ等広範囲に亘る分野で、会員皆様の中で、目を見張る活躍をされている方、即ち、輝いている方を募集・受付している窓口です。この分科会より支部の表彰委員会に推薦することになっていきます。この表彰制度は、

会員の皆様には大きな励みと更なる元気を、そして、ささやかな名譽を得られるインセンティブになれば、との思いと期待を込めて創設されたものです。
(注) この申請は会員の皆様が自薦、他薦何れでもできます。申請要領は事務局に備え付けの用紙をお使いになっても、申請要項をご参考にしてFAXでもメールでも結構です。
最後になりますが、三月の役員会で現在の表彰対象レベルでは対象になる人は、限られるので、日常生活範囲まで拡げようというか、とのご指摘がございました。世の中には、例えば、老人介護、環境整備、外国人教育サポート等ボランティア活動を長期に亘って実行されている方々がいらっしゃいます。この方々は誰が感謝することになるのでしょうか。早急に検討課題いたします。
メンバー 宮本洋子(分会長)、北条勇、鈴木まり子 3名

親睦・交流分科会

東京支部会則の目的には、会員相互の親睦の実を上げることとなっております。この分科会は会則の目的を達成するため、大勢の会員が気持ちよく参加できる種々の課題(ゴルフ、バス旅行、釣り、ハイキング等)を検討し、提案し、計画を実施することとあります。この充実如何が目的達成の成否に関わるものと思っております。

実施報告

第一回紫雲会東京支部ゴルフ大会は平成18年10月20日に開催した。千葉県大多喜カントリークラブ

参加者 11名
結果 優勝 上田康夫
準優勝 片岡英明
第三位 若宮修三

大盛況とはいえないけれども、東京支部初めてのゴルフコンペであります。プレイ賞を考慮すると、平日(金曜日)にプレイせざるを得ないわけですから、よって、多くの会員は仕事の関係で、参加が難しい向きもあつた。



たものと思われまします。これからはこのゴルフの外、バス旅行等ご家族揃って参加できる企画も考えたいと存じます。年次幹事さんにもご協力をいただいで、各イベントが大盛況になるよう努力をして参ります。
メンバー 杉ノ内義春(分会長)、上田康夫(副分会長)、安西彰、太山喜代一、青木真治 5名
尚、次回から、分会長は上田康夫氏(同上)となり、杉ノ内義春氏(同上)は「会員動員増強分科会」の分会長となります。

お知らせ
中山正志さん(七十三才、昭和十八年卒)紫雲会東京支部顧問は、平成十九年五月十一日に永眠されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

「マスターズ陸上」と私
昭和38年卒 宮本洋子
高商時代は陸上部に所属し、学業とスポーツで青春を思い切り謳歌しました。卒業して、入社した旭化成では良い目標を掲げて日々精進をして参りました。しかしながら、私にとっては、心から納得いく結果ではありませんでした。この気分的に不完全燃焼をいつか脱却しようとの思いはいつも持っておりまして。かなりの歳月が経って、「マスターズ陸上」に入会し、参加することにしたのです。それは、昭和六十一年のことでした。二十年振り、気分新たにスバイクを履いたのです。尚、「マスターズ陸上」をご説明しますと、男子三十五歳、女子三十歳以上の選手を五歳刻みで区分し、その区分した中で選手が、「より速く、より高く、より遠くを競い合う」ものです。「全日本マスターズ大会」では、国内全域はもとより、韓国、台湾からも参加され、エントリー総数は千五百人にもなります。また、二年毎に開催される「アジアマスターズ」大会では、約二十カ国の選手が参加され、友好を深めながら競技をします。長寿



要因と思われれます。これからも元氣な花を一緒に咲かせませんか！一緒に汗を流しませんか！競技歴の概要（誌面の都合上カットしますが、目を見張る記録ばかりです。）

昭和38年10月（旭化成 陸上部時代）

東京五輪予選レオニックに出場する
800H

宮崎県大会 800H 5年連続出場、10年間記録保持（2分19秒）

日本選手権に出場、国体5年連続出場
4000H（63秒2）

平成6年7月
全日本混成大会「大阪」W50 5種

競技 2212点 「日本新 優勝」

平成年7月
全日本混成大会「大阪」W50 7種

競技 3870点 「日本新 優勝」

平成16年11月
全日本混成大会 W60、3000H

63秒17 「日本新記録」(因みに過去の記録65秒44)

平成16年12月
アジアマスターズバンコク大会 80

H、3000H、4000R

金メダル 3個ゲット(3000Hは67秒46でアジア新記録)因みに過去の記録 75秒50

平成17年5月
全日本混成大会「東京」W60 5種

ふるさと便り

青川立花松高松高等学校 青川 住雄

昨年度の大きな出来事としては丸亀町商店街がリニューアルされ三越を中心としたモダンな商店街に生まれ変わったこと。東京の有楽町とはいきませんが、なかなか斬新なアイデアが施されています。

また、「高商」周辺においては、少子化に伴い、新塩屋・築地・松島小学校、城内・光洋中学校が、小

競技 2970点「日本新記録」(因みに過去の記録2933点)
平成17年8月
全日本大会 W60、800H、3000H、走り幅跳びの3冠

尚、3000Hは日本新63秒17
その他のアジア大会
「シンガポール」800H、4000R(優勝)
「ソウル」800H、3000H、槍投げ(優勝)

(注) Wは女性、800Hは80mハートルのこと
5種競技とは800H、走り高跳び、砲丸投げ、走り高跳び、800m

7種競技とは5種目に槍投げ、200mが加わる。
宮本洋子さんは昨年十一月の東京香川県人会定期総会でマスターズ陸上競技の功績を顕彰され紹介をされました。

「高商東京二八会の歩み」

杉ノ内義春

昭和28年3月 伝統ある母校の誇りを胸に卒業しました。卒業生は進学し、あるいは就職して、各地域に分散した。それぞれが苦難と逆境に

中一貫の新しい発想のもと、松島小学校・光洋中学校跡地に統廃合されること。現在、2年後の完成を目指し新校舎の建築も始まっています。隣接している高松中央高校、小中一貫校、本校の改築と高商周辺は、学校の建築ラッシュの状況にあります。観光面では、アクリルに関する日ブラ(県内企業)の世界最高の技術で、屋島水族館がイルカとの触れあい「癒し」をテーマにリニューアルされ人気上昇しています。シャトルバスも運行されはじめました。

「紫雲会東京支部発足から今日まで」.....70 余年史

常任理事会議長 榎本 恵一

「高松商業100年史」の発行をした書物の中に、第三代東京支部長をされておられた、故人ですが、元資生堂社長の岡内英夫さん(大正12年卒)と、第四代東京支部長でありましたフジコピアン社長の伊丹宏文さん(昭和12年卒)の対談があり、その中で東京支部のスタート時点からの事をお話をされていますので、そこから引用して記載したいと思います。

紫雲会東京支部は昭和10年頃、鈴木祥枝氏(明治36年市立第1回卒、東京海上火災保険)社長、松本昇氏(明治37年県立第1回卒、資生堂社長、参議院議員)、鎌田正明氏(明治38年卒、日本興業銀行元参与、商工中央金融初代理事長、国民相互銀行社長)の三氏が中心となり、東京で高松商業学校の同窓会を発足した。

この鈴木、松本、鎌田氏の体制を維持し、第二次世界大戦で同窓会の中断した事もあったようですが、昭和32年まで継続された。当時は大体20名位の同窓会の出席であったようです。

鈴木さんの後、第二代支部長を鎌田さんがされていましたが後年、お年をとられた事情から同窓会がとどこりがちになり、当時同窓会の裏方の仕事をされていた伊丹さんへ鎌田さんより、「次の支部長になる人を口説いてきて欲しい」と依頼され、資生堂の岡内さんの所へ何回も足を運びますが、仕事が忙しくてスケジュールが取れないと言われ、それでも粘って、伊丹さんが全面的に手助けしてくれるならば、という事で、やっと第三代の東京支部長を引き受けて頂きました。更に岡内さんの指名で野村證券の副社長であった増田健次さん(昭和3年卒)、日野自動車販売社長であった天野千代吉さん(昭和6年卒)と、当時、興銀の常務であった尾尾真さん(昭和6年卒)の三人の方に副支部長の就任をお願いしました。後年、岡内さんは総会や学校からの依頼事項、記録等は全て伊丹さんが事務処理も含めよくやって頂いたとの感謝の言葉がありました。

岡内さんが支部長の時は交通の便もよい銀座資生堂バーラーの便宜を図って頂いたりした結果100名近くの人達が集まるようになりました。

伊丹宏文さん(昭和12年卒、フジコピアン)社長)はその後、平成8年に第四代の東京支部長をされましたが、東京支部が円滑に運営できたのもかなり、個人に無理をお願いしてきた事があり、例えば、高松商業90周年募金のとき、岡内さん個人で1000万円も寄付をされていました。このような事は特定の人だけが居れば出来ても、これからは段々と難しくなっており、やはり個人に依存をするのは無理があるとの思いから、上場企業の役員や中小企業の社長、経営者等、一国一城の主となるような方々に、副支部長7人、理事100人近くをお願いし、特定の人をお願いするやり方は改めました。このように有る程度の基金を作り次の支部長へ譲りたいと思っていました。

伊丹さんは運営の仕方を改めていく中で、病気がちになり、第五代東京支部長を溝淵利幸さん(昭和28年卒、高松商事)社長)に平成12年に引継ぎをしました。

溝淵さんは伊丹さんの意向を良く理解され、東京支部の活動を会員間の親睦と交流をよりはかり、母校とのコミュニケーションも行うため、開かれた東京支部の活動を活発化するため、組織を使って行なうやり方に改めていく途上にあります。又、会場も銀座のサンミ・高松の会場の便宜を図って頂き、出席者は60名余と落ち込んでいた高商卒業生も現在は100名を超える位までなってきました。

このように歴代の東京支部長が環境の変化に対応する形で紫雲会東京支部の方向付けをして頂いたお蔭で今日があると強く思うものです。

多くの分野の仕事に携わっている人達、携わっていた人達等、幅広い現役・OBが利害に関係なく語り合える数少ない場であり、見方を変えれば異業種交流、異なる環境の人達との交流出来る場でもあります。今後とも先輩、後輩の区別なく同じ学校の卒業生として人間的なお付き合いの出来る場であって欲しいと思うものです。

耐え、それが一人一人にとって、人生の基礎を築いてきたものと思われれます。私達は社会人として全力投球をしてきました。
二八会は昭和38年頃から関東在住者で数名が集い、年一回の懇親会をもったのが始まりでした。昭和44年5月、永久幹事二名(杉ノ内、上田)を選任し、この会を定着させてきました。この当時二八会会員は38名(女性4名、男性34名)と拡大してありました。この会員の職種は因みに、レストラン、証券、銀行、保険、税務、マスコミ、画家、情報処理、商社、主婦でした。このメンバーが年に二回程度集い、二八会は触れ合いの場」として楽しみ、親睦会は盛り上がりました。不幸にして、メンバーの杉野君、村尾君は他界されました。

母校への援助協力としては、平成8年3月 選抜野球大会出場寄付12万円、平成11年10月 高商百周年記

紫雲会大阪支部だより

副支部長兼事務局長 多田 孝

紫雲会東京支部の皆さん、ご機嫌うるわしく、益々ご健勝のことお慶び申し上げます。
この度、東京支部におきまして「会報」を創刊されることは、会員の皆さんにとって、情報の交換、意思の疎通等々の観点から、大変意義深いものがあります。
さて、大阪支部としての歴史は長く、受けたまわりますと昭和27・28年頃初代支部長に鳴岩音市先輩からはじまり、金川義之支部長(大正11

年卒)、宮武徳次郎支部長(大正14年卒)、赤城猪太郎支部長(大正14年卒)、渡辺博支部長(昭和13年卒)、本田又剛支部長(昭和13年卒)、そして第七代現大阪支部長の北村光雄先輩(昭和22年卒)がご就任され、熱意ある多くの先輩に支えられ、紫雲会大阪支部も創立以来、半世紀が経過しました。この間、平成8年には北村支部長のご発案とご指導に依り、「紫雲会大阪支部45周年記念誌」を発刊しました。北村支部長の基本方針は、会員同士の「和」と協調の精神」をモットーに、常にコンセンサスを重んじ、「風通しの良い大阪支部でありたい」と常にご指導をいただいております。
大阪支部の年中行事の一環として、年一回の総会案内(6月度)、役員間(約70名)懇親会の開催(12月度)、年2回(春・秋)の支部長杯ゴルフ大会等々を実施しております。大阪支部の皆さんは、ふる

さと(高松)を離れて数十年、第二のふるさとを大阪で紫雲会大阪支部として築き、良い思い出を創作することを事務局の一人として努力しています。
又、大阪支部は一昨年役員からのご提案もあり、母校高松商業とのつながりの中で、スポーツ・文化の振興発展にいささかでも寄与する為に、インターハイ出場運動部に対し奨励制度の条文を掲げました。
東京支部の「会報」創刊を機に、紫雲会本部を中心に先支部との交流をお願いし、東京支部のさらなる発展と溝淵支部長様をはじめ、皆々様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、私の「紫雲会大阪支部だより」としてのご報告にさせていただきます。



紫雲会東京支部役員会

(平成19年3月12日)

今までの取り組みと平成19年度の活動計画を審議するため、十八名の役員が出席し各議題について審議しました。冒頭、溝淵支部長より挨拶があり、東京支部も今日まで七十二年間を経過し、途中戦争の空白期間を差し引いても実質は六十年間位の活動期間になり、多くの先輩や後輩に支えられて高松商業のOB会として維持出来てきました。

飛足当時の社会環境から今日では大きく変わってきており、この会の性格も本来の会員相互の親睦や交流を深め、母校との連絡を密にしお互いの発展に寄与するため、会員による会員のための紫雲会東京支部に内容を充実していく事にし、単にOB会としての名前だけのものではなく、クラブ的な会員相互の親睦を名実ともに深めていくようにしたいと思っております。とのご発言があり、審議・報告等がなされました。内容につきましては平成十九年度総会案内の報告・審議事項と重複しますので、そちらをご覧ください。

学校だより

香川県立高松商業高等学校 小西裕樹

先輩諸氏の築かれた伝統の重さを痛切に感じながら高商生活を過ごして、卒業後母校の教壇に立たせてもらっています。現在、母校「高商」は、老朽校舎改築の真っ最中にあり、日々新校舎の輪郭が現れてきています。ほぼ、6年をかけて全面リニューアルされた学舎となります。専門高校として特別教室棟や図書館の充実を期しています。

昨年度在校生の活躍はめざまし

当日の役員会にご出席頂いた方は次の方です(敬称略) 溝淵利幸、安西 穂本恵一、造田貞男、宮本洋子、松岡武三郎、上田康夫、佐々木清、杉ノ内義春、内海昭夫、安西彰、川田福造、小畑和子、小林紀子、多田正美、横山征一、北條勇、漆原慎二の十八名。

「年次別幹事会」発足!

常任理事会 議長 穂本恵一

平成19年4月21日、サンミ高松に於いて、待望の紫雲会東京支部「年次別幹事会」が開催されました。もともこの年次幹事の発想は高松高校OB会である東京五翠会が毎年約千人の同窓生を集めている情報から、学ぶ事は真似る事から始まるの例えがありますように会員動員を多くするために、この方法を検討しようという役員会の承認のもと溝淵支部長の強力な後押しがあつて、今回実現を見たものです。

紫雲会東京支部には事務局の機能もありませんので、事務局から会員にご連絡した後のフォローアップを同卒の年次幹事の方がやって頂き、その結果を再度事務局にご連絡して頂く

私と故郷

昭和33年卒 小畑和子

故郷、高松を離れて四十数年、私と故郷とのつながりは、91歳になる母が高松で一人暮らしをしています。そのため年に数回は高松に帰ります。

特定非営利法人(NPO)ニッポン・アクティブライフ・クラブ(NALC通称ナルク)の活動を知り、一人暮らしの母の手助け、遠距離介護を利用したいと思、「ナルク」の会員になりました。

私が母の身近に居れば、話し相手になるとか、何か手伝うとか、母に役立つことが千葉県に住んでいる私には、すぐには出来ません。しかし、「ナルク」の会員になったお陰で、私が出来なくても母の近くに「ナルク会員」が住んでいると、私の代りにその会員の方が母の話し相手や、役立つ事をして頂けることが可能になります。

そのためには、私は自分の住んでいる地域で、介護を必要とし、国の一定の基準でその生活の支援を受けている方がいらっしゃいますが、しかし、ちょっと病院へ治療や買い物に行くといつても、従来のようにタクシー代も出なくなった保証制度の改訂でお困りの方や、お家の庭にある花壇の草処理や清掃などをしようと思つても体が不自由でなかなか出来ない人達を、私も「ナルク会員」としてお手伝いし、処理をして差し上げております。

このように私が何かのボランティア活動を行いますと、1ポイントを得ることが出来ます。先ほどの病院の送迎とか、花壇の手入れとか、いろいろ実施する項目ごとにポイントが定められており、私の得たポイントを遠距離である母の住んでいる近くに同じ「ナルク会員」がおりますと、私のポイントを使って母がその会員の方にいるんなことをお願いし、会員もその要望にこたえるようになっているシステムです。勿論介護を必要とする人はなんの心配もありません。このような制度がNPO法人で存在している事をもっと皆さんに知って欲しい訳です。

でも私がこのようなボランティアをやってみて思うことは、人のため行なうのでなく、人とのふれ合い、喜び、自分の健康のためにも役立つことだと最近になって判ってきました。人とのつながりやきずなの中で感謝され、喜びを頂き、残りの人生を楽しく過ごしたいと思っています。

ナルク入会等の問合せ先

1. 年会費3千円の支払いが必要です。
2. 入会申し込み等は下記にお問い合わせ下さい
特定非営利(NPO)法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ(通称ナルク)
〒540-0028 大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
電話 06-6941-5448 ホームページ <http://nalc.jp>



独自のやり方となり、従来、一方通行であった「ミニミニ」が初め、双方方向になってきます。その事が「組織の活性化」、「会員相互の交流・親睦の促進」という大きな課題に結びついてくると思っております。当東

京支部会員は、自営業は極めて少なく、転勤の多いサラリーマンが多い特徴があります。同期の同窓会で定期交流をされている年次は毎年七月の東京支部総会への出席も多しという実績があります。

この制度実施に当たって、年次別の幹事さんを短期間にどのようにに選任するか、この趣旨をご理解いただけるかどうか、懸念はありました。しかしながら、支部会員のご理解とご協力を得て大勢の皆様にご出席を賜り本当にありがとうございました。27年次 32名の幹事、副幹事さんのご出席でした。この年次幹事さんの年次毎の交流・親睦の発展、拡大が東京支部の活性化には必要不可欠な要素と考えております。今後の活躍を心より祈念申し上げます。

尚、会員の皆様には「年次別幹事一覧表」をご利用いただきたいと存じます。

紫雲会東京支部 年次別幹事

昭和46	昭和45	昭和44	昭和43	昭和42	昭和41	昭和40	昭和39	昭和38	昭和37	昭和36	昭和35	昭和34	昭和33	昭和32	昭和31	昭和30	昭和29	昭和28
森治誠	出原剛至	南田豊	藤木康男	中條恒恵	毛利一夫	谷川生市	池田政廣	西尾久史	鹿庭清司	高島保	高島武	多田正美	関本恵一	榎邦義	宇田川四郎	平田文夫	上田康夫	上田康夫
						小松功	横山征一		藤岡孝之				川田福造	小林紀子			杉ノ内義春	杉ノ内義春
平成10	平成9	平成8	平成7	平成6	平成5	平成4	平成3	平成2	昭和57	昭和56	昭和55	昭和54	昭和53	昭和52	昭和51	昭和50	昭和49	昭和48
青木寛治	立岩直樹	青木寛治	佐々木義徳	飯野ひとみ	鈴木純一	平木純一	古市真之	二川正浩	須田賢一	漆原慎二	須田賢一	須田賢一	須田賢一	須田賢一	須田賢一	須田賢一	須田賢一	須田賢一
									福光徹									

SANSUKAI 劇団立ち上げ 高商OB

初めまして、高商を卒業して東京で一人暮らし、寂しい日々の毎日でした。でも、大学やバイト先で高商の話をするのが盛り上がるんですよ。輪が広がるんです。「高商商業」を卒業してその偉大さに改めて感慨いたしました。先輩方に心より

【次回講演】八月二日・八月五日
「十一人の少年」作：北村想
【場 所】高田馬場
アートボックス
お問合せ：〇三三九八四一五〇一九
sansansukai@yahoo.co.jp

感謝いたします。そして、僕は劇団を立ち上げました。皆様に少しでも何かを感じていただきたく、演技の反省・努力をして精進しています。

会費の納入者

第89回東京香川県人会定期総会ご案内

私達香川県ふる里の仲間が多く集まります。高松商業OBもふるって参加下さい。(問い合わせ先：東京香川県人会事務局〇三二五二二九九〇〇)開催の趣旨 香川県にゆかりのある方たちが一同に会し、郷里の言葉で語り合い、相互の親睦を深め合い共に郷土との連絡を図ることを目的に開催します。ごなたでも参加できます。

開催日時 平成19年11月5日(月) 18時

会場 東京會館 9階「ロースルーム」

次第 総会 懇親会 アトラクション お楽しみ抽選会

参加費 7,000円(学生 3,000円)

開催案内は、9月下旬に送付する予定です。ホームページに掲載し案内します。

<http://www.pref.kagawa.jp/tokyo/kenzinkai.htm>

リーフレットを作成し、向形館(UR新橋駅)など主要な場所にて配布します。

祝
創刊号

スロミス株式会社

代表取締役社長 神内 博喜
(昭和47年卒)

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-2-4
TEL 03-3287-1515
URL <http://www.promise.co.jp>

安西法律事務所

弁護士 安西 愈
(昭和32年卒)

〒104-0061
東京都中央区銀座3丁目4番地1号大倉別館3階
TEL 03 - 3563 - 3225 ~ 7
FAX 03 - 3561 - 2446



前味(安らぎ)、中味(感動)、後味(幸福)のサンミ
味を讃美するサンミ
お客様、料理、社員が三位一体となるサンミ

同窓会・クラス会・ご家族様でのご会食、歓迎迎会
等に大小個室をご利用ください。

フランス料理・日本料理・イタリア料理
からだにやさしい、Myレストラン

銀座 Sun-mi 高松本店

〒104-0061 東京都中央区銀座6-3-9
TEL. 03-5568-3300 (組合受付)
<http://www.takamatsu-inc.co.jp>

並木通り店・銀座7丁目店・横浜 伊勢佐木町店